

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：微生物研究班 提出日：平成 29 年 3 月 6 日 報告者：藏前 仁

行事種別	愛臨技精度管理事業		行事番号	160030460	
開催日	平成 29 年 3 月 4 日 (土)				
時 間	開 始	15 時 30 分	終 了	18 時 00 分	
場 所	名城病院 地下大会議室 (所在地 名古屋市)				
テーマ	テーマ：技術の精度保証を考える				
生涯教育履修点数	基礎教科 20 点				
司 会	江南厚生病院 河内 誠 技師				
講 師	講演1：「平成28年度愛臨技精度管理報告」 名古屋第二赤十字病院 原 祐樹 技師 講演2：「二級臨床検査士試験から学ぶ微生物検査の基礎技術」 江南厚生病院 及川 加奈 技師 刈谷豊田総合病院 中村 友紀 技師				
内 容	講演 1 においては、精度管理調査内容とその出題意図について解説した。特に今年度から導入した、感染症法に関する設問について詳細に解説した。感染症法に関する知識は微生物検査に携わる技師として必須であり、その重要性について再認識できた。 講演 2 においては、精度保証の一貫として、二級臨床検査士試験の問題傾向から、微生物検査の基礎技術を改めて見直すことを目的とし、今年度の試験合格者 2 名から解説を行った。自動分析機や質量分析機の普及に伴い、旧来の技術が必要になる機会は減少しているが、だからこそ常に意識して基礎技術を磨く必要があると感じた。 両講演ともに、参加者から多数の質問があり、活発な討議が行われた。				
参加者	総数：81 名（会員 79 名、賛助会員 2 名）				
共催、後援など					

2016.6.28

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：微生物研究班 提出日：平成 29 年 4 月 4 日 報告者：藏前 仁

行事種別	研究会	行事番号	170000390
開催日	平成 29 年 4 月 1 日 (土)		
時 間	開 始	15 時 30 分	終 了 18 時 00 分
場 所	アーバンネット名古屋ビル 20F リップルスクエア (所在地 名古屋市)		
テーマ	学会レビュー		
生涯教育履修点数	専門教科 20 点		
司 会	江南厚生病院 河内 誠 技師 刈谷豊田総合病院 藏前 仁 技師		
講 師	講演1：「DPS192iXを使用した迅速薬剤感受性試験に関する基礎的検討」 名古屋第二赤十字病院 原 祐樹 技師 講演2：「MALDI-TOF MSを用いた糸状菌のOn-plateギ酸処理法に関する検討」 刈谷豊田総合病院 松井 奈津子 技師 講演3：「基幹病院におけるin-house耐性遺伝子検査の臨床的有用性 ～感染制御の観点から～」 愛知医科大学病院 坂梨 大輔 技師 講演4：「感染対策に貢献するPOCTの現状と今後の課題」 江南厚生病院 舟橋 恵二 技師		
内 容	講演 1、2 においては、第 28 回日本臨床微生物学会（開催地：長崎市）で発表された一般演題を、講演 3 では同学会で発表されたシンポジウムを、講演 4 では第 32 回日本環境感染学会（開催地：神戸市）で発表されたシンポジウムを改めて聴かせて頂いた。 講演 1 では、グラム陰性桿菌の耐性菌検出の迅速化についての発表であった。耐性菌報告の迅速化は治療上、また感染対策上重要であり、非常に関心の高い話題であった。 講演 2 では、質量分析機での糸状菌の同定精度についての発表であった。糸状菌の同定はどの施設も難渋しており、その改善に向けて大変興味のある発表であった。 講演 3 では、薬剤耐性遺伝子の検出について、その有用性を詳細に解説して頂いた。耐性菌と闘うためのツールとして、遺伝子解析は大変優秀であると再認識された。 講演 4 では、各施設で広く活用されている POCT の課題と将来像についてお話頂いた。 また遺伝子検査の POCT 化についても、その利点と課題についてお話頂いた。 全ての講演において、参加者から多数の質問があり、活発な討議が行われた。		
参加者	総数：63 名（会員 59 名、賛助会員 4 名）		
共催、後援など			

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：微生物研究班 提出日：平成 29 年 7 月 5 日 報告者：藏前 仁

行事種別	研究会	行事番号	170003427
開催日	平成 29 年 7 月 1 日 (土)		
時 間	開 始	15 時 30 分	終 了 18 時 00 分
場 所	名古屋市立大学病院医学研究科医学部研究棟 11 階講義室 A (所在地:名古屋市)		
テーマ	皆で考える耐性菌検査 ～今日からわかる！できる！～		
生涯教育履修点数	専門教科 20 点		
司 会	刈谷豊田総合病院 藏前 仁 技師 名古屋第一赤十字病院 美濃島 慎 技師		
講 師	講演 1：基本に立ち返る！初心者のための耐性菌講座 小牧市民病院 西尾 美津留 技師 講演 2：皆はどうやっているの？耐性菌検出と報告の実際 JA 愛知厚生連足助病院 古井 清 技師 JA 愛知厚生連豊田厚生病院 永田 悠起 技師 講演 3：こんな時どうしよう？耐性菌ケースカンファレンス JA 愛知厚生連江南厚生病院 河内 誠 技師		
内 容	今回は、近年の微生物分野における中心的話題である、グラム陰性桿菌の耐性菌の検出と報告について取り上げた。 講演 1 は、グラム陰性桿菌の耐性機序について、その分類と検出方法について、基礎から学ぶ内容であった。耐性菌の検出は、治療および感染対策上極めて重要であり、今回改めて知識を整理することができた。 講演 2 は、規模の異なる 2 施設からの耐性菌検出と報告の実際についての発表であった。施設規模により、耐性菌の検出方法は異なるものの、耐性菌検出と感染対策の重要性は変わらないと確信できる、大変意義深い発表であった。 講演 3 は、実際の感受性試験データを元に、耐性機構の推定および臨床への報告について非常に活発な討議が行われた。		
参加者	総数：113 名（会員 111 名、賛助会員 2 名）		
共催、後援など			

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：微生物研究班 提出日：平成 29 年 11 月 2 日 報告者：藏前 仁

行事種別	基礎講座	行事番号	170013721
開催日	平成 29 年 10 月 28 日 (土) ～ 平成 29 年 10 月 29 日 (日)		
時 間	(1 日目) 開 始	13 時 00 分	終 了 17 時 00 分
時 間	(2 日目) 開 始	9 時 00 分	終 了 13 時 00 分
場 所	名古屋大学医学部 基礎研究棟 第 1 講義室・実習室 (所在地 名古屋市)		
テーマ	耐性菌検出における PDCA サイクル～作業は地味だが役に立つ！～		
生涯教育履修点数	専門教科 30 点		
司 会	小牧市民病院 西尾 美津留 技師		
講 師	講義 1 豊橋市民病院 山本 優 技師 「薬剤耐性菌発見の最初の入口 腸内細菌科細菌の自然耐性について」 講義 2 名古屋第一赤十字病院 美濃島 慎 技師 「各種耐性機構と感受性試験結果の特徴-ESBLとAmpC」 講義 3 公立陶生病院 位田 陽史 技師 「カルバペネマーゼについて」 講義 4 名古屋第二赤十字病院 原 祐樹 技師 「耐性菌検出のPDCAサイクル-耐性菌検査法の実際-」 講義 5 愛知医科大学病院 坂梨 大輔 技師 「実習のまとめ・ねらい」		
内 容	本基礎講座では、「耐性菌検出における PDCA サイクル」をテーマに、日々実施している耐性菌スクリーニング検査を「Plan」「Do」「Check」「Action」に当てはめ、PDCA サイクルの考え方を踏まえながら検査を進めることを目的とした。 【概要】 一日目に PDCA サイクルにおける「Plan」と「Do」を実行する為の基礎知識を講義し、その後の実習で講義の知識をベースに実際の菌株を用いたスクリーニング試験を参加者考察のもと実施した。二日目には、前日参加者自身で行った検査の結果を「Check」し、次につなげるための「Action」を、総括の講義を聞きながら考えていただいた。 【詳細】 講義 1 では、①薬剤耐性菌を確実に検出する重要性 ②腸内細菌科細菌の本来の感受性パターンについて講演した。薬剤耐性菌の報告は毎年増加しており、今後ますます重大な問題となっていくと考えられる。微生物担当検査技師として薬剤耐性菌を確実に検出するためには菌固有の薬剤感受性成績パターンをしっかりと把握する事を目的とした。		

	講義 2 および講義 3 において ESBL、AmpC、カルバペネマーゼ産生菌について、各耐性因子と感受性試験結果の特徴について講義し、臨床検査の現場において効率的に的確に検出するためには、各耐性因子の特徴と分解が可能な抗菌薬を理解する必要がある。この講義では耐性因子毎に、感受性試験結果において注意すべきポイントと鑑別点について重点的に講義した。講義 4 においては、耐性菌検査法の実際について、先に学んだ各耐性因子を証明、又は否定するため、どの検査を実施すべきか。実施に判定方法、注意点について講義した。実践編では感受性結果から推定される耐性機序と必要な追加試験を受講者と一緒に考えた。 実習においては、参加者に配布した薬剤感受性試験成績より考え得る耐性因子を推察した。その後、菌株を参加者に提供し必要な追加試験を実施し、翌日まで培養した。直前の講義で説明された各種検査を受講者が実際に経験できる構成が組まれており、学んだ知識をただちに生かすことができる場となった。 翌日、参加者が実施した試験の結果を判定し、予想した結果と一致していたか、不一致であった場合、その要因について考察し次回への改善点を考察した。 最後に坂梨技師より今後の耐性菌検査および感染制御へ寄与できるように実習のまとめ・ねらいについて講演した。
参加者	総数：39 名（会員 39 名、申請中 0 名、賛助会員 0 名）
共催、後援など	

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：微生物研究班 提出日：平成 29 年 11 月 28 日 報告者：藏前 仁

行事種別	講演会	行事番号	170039280
開催日	平成 29 年 11 月 25 日 (土)		
時 間	開 始	15 時 30 分	終 了 18 時 00 分
場 所	名古屋大学医学部 基礎研究棟 3 階 第 2 講義室 (所在地 名古屋市)		
テーマ	臨床微生物検査の Up-to-Date 2017 ～菌力アップトレーニングを含めて～		
生涯教育履修点数	専門教科 20 点		
司 会	刈谷豊田総合病院 藏前 仁		
講 師	東京医科大学微生物学講座 大楠 清文		
内 容	本講演会では「臨床微生物検査の Up-to-Date 2017 ～菌力アップトレーニングを含めて～」をテーマにて開催した。 講師の大楠清文教授は、国際会議にも多数出席されており、CLSI、ECCMID など欧米の学会に関する情報、微生物検査における技術革新など、最先端の情報が紹介された。特に微生物検査室における自動化に関しては、我が国でも現実になりつつあり、今後の臨床検査技師の在り方について、真剣に考えさせられる内容であった。 また、恒例である“菌力アップトレーニング”としては、臨床症状、グラム染色、培養集落の性状をキーとする症例を Q&A 方式にてフロア全体で考え、回答し、各種情報を総合的に考えて菌名同定にいたる必要性を解説された。 昨年に引き続きの講演であったが、この 1 年で微生物検査を取り巻く状況は大きく変化したことを実感できる内容であり、県下の技師へ大変有益な情報を提供して頂いた。		
参加者	総数：84 名（会員 83 名、医師 1 名）		
共催、後援など			

2016.6.28

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：微生物研究班 提出日：平成 30 年 2 月 21 日 報告者：藏前 仁

行事種別	愛臨技精度管理事業		行事番号	170064176	
開催日	平成 30 年 2 月 17 日（土）				
時 間	開 始	15 時 30 分	終 了	18 時 00 分	
場 所	名城病院 地下大会議室（所在地 名古屋市）				
テーマ	テーマ：技術と情報発信の精度保証を考える				
生涯教育履修点数	基礎教科 20 点				
司 会	刈谷豊田総合病院 藏前 仁				
講 師	講 演 1：平成29年度愛臨技精度管理報告 名古屋第二赤十字病院 原 祐樹 講 演 2：耐性菌検出と抗菌薬適正使用支援 JA愛知厚生連江南厚生病院 河内 誠 講 演 3：抗菌薬適正使用に向けた多職種の活躍 刈谷豊田総合病院 佐藤 浩二、佐原 祥子、天野 ともみ				
内 容	講演 1 においては、精度管理調査内容とその出題意図について解説した。特に今年度から評価対象とした、感染症法に関する設問について詳細に解説した。感染症法に関する知識は微生物検査に携わる技師として必須であり、その重要性について再認識できた。 講演 2 においては、近年学会等でも話題の中心となり、2018 年 4 月より保険収載されることとなった、抗菌薬適正使用支援について、その基礎から学んだ。 講演 3 においては、抗菌薬適正使用支援について、実際に活動を行っている施設の薬剤師、看護師、臨床検査技師の 3 職種から、それぞれの視点からお話いただいた。 3 講演ともに、参加者から多数の質問があり、活発な討議が行われた。				
参加者	総数：73 名（会員 68 名・賛助会員 3 名・その他（講師）2 名）				
共催、後援など					

2016.6.28